

大阪市立住まい情報センター

令和5年度 事業報告書

指定管理者

大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体

目 次

○大阪市立住まい情報センター 概要	・・・ 1
1. 指定管理業務の実施状況	・・・ 3
2. 各事業の実施報告	
(1) 相談事業	・・・ 7
(2) 普及・啓発事業	・・・ 10
(3) 広報事業	・・・ 15
(4) ライブラリー事業	・・・ 18
(5) ホール・研修室等の運営事業	・・・ 20
(6) 展示事業	・・・ 21
(7) 住まい・まちづくりネットワーク事業	・・・ 30
3. 利用者モニタリング等の実施状況	・・・ 32
4. 自主事業	・・・ 39
5. 収支決算状況	・・・ 40

大阪市立住まい情報センター 概要

■施設概要

施設名称	大阪市立住まい情報センター
所在地	大阪市北区天神橋6丁目4番20号
施設規模	敷地面積：3,392 m ² （うち大阪市部分2,113 m ² ） 構造規模：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 地下1階／地上10階 延床面積：5,195 m ² （全体19,560 m ² のうち、3階の一部、4階、5階の一部、7階の一部、8～10階）

■施設の構成

① 住情報プラザ（4階）

- ・相談カウンター…………… 住まいに関する一般的な相談・情報提供
- ・相談ブース…………… 専門家相談（法律、建築・リフォーム、資金計画）、連携機関による定期相談（建築、税務）
- ・ライブラリー…………… 住まい・建築・大阪に関する図書・絵本などを配架
- ・来館者用パソコン端末コーナー… 来館者が、住まいに関する情報などを検索・収集できるパソコン端末を設置

- ② ホール（3階）・研修室（5階）…………… 住まいに関するセミナーなど多彩なイベントを実施
市民や各種団体等への貸室利用
ホールの最大収容人員……300人（194人）
研修室の最大収容人員……70人（64人）

※括弧内は新型コロナウイルス感染防止対策として制限を行った場合の収容人数

- ③ 住まいのミュージアム（8～10階）… 大阪の住まいや人々の暮らしの歴史を再現

『大阪くらしの今昔館』

同一建物内に、大阪市営住宅募集センター、大阪市住宅供給公社、大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館、三井住友銀行がある。

■指定管理者

団 体 名	大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体
主たる事務所の所在地	大阪市北区天神橋6丁目4番20号
代 表 者	理事長 田中義浩（令和6年3月31日現在） （担当者 大阪市立住まい情報センター 所長 宮原 有美子） （06-6242-1160）
指 定 期 間	平成31年4月1日から令和6年3月31日までの5年間

■施設の開館時間等の実績

○施設の開館日数

	住情報プラザ	住まいのミュージアム『大阪くらしの今昔館』
開館日数	301日	303日
うち臨時開館日	0日	19日
うち夜間等の開館日	0日	0日
臨時休館日	0日	7日※

※展示替えのため4月17日～4月21日まで4日間臨時休館（休館日除く）、9月4日～9月8日まで4日間臨時休館（休館日除く）した。

○住情報プラザの開館時間等

開館時間

	住情報プラザ	ホール・研修室
平日・土曜日	9:00～19:00	9:00～21:00
日曜日・休祝日	10:00～17:00	9:30～17:00

休館日 火曜日（休祝日の場合は翌日）

休祝日の翌日（日曜日、月曜日の場合を除く）

年未年始（12月29日～1月3日）

○住まいのミュージアム『大阪くらしの今昔館』の開館時間等

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 火曜日

年未年始（12月29日～1月2日）

展示替え期間（4月17日～4月21日、9月4日～9月8日）

入場料 一般 600円 団体500円（20人以上）

高・大学生 300円 団体200円（20人以上）

※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）、市内居住の65歳以上の方は無料

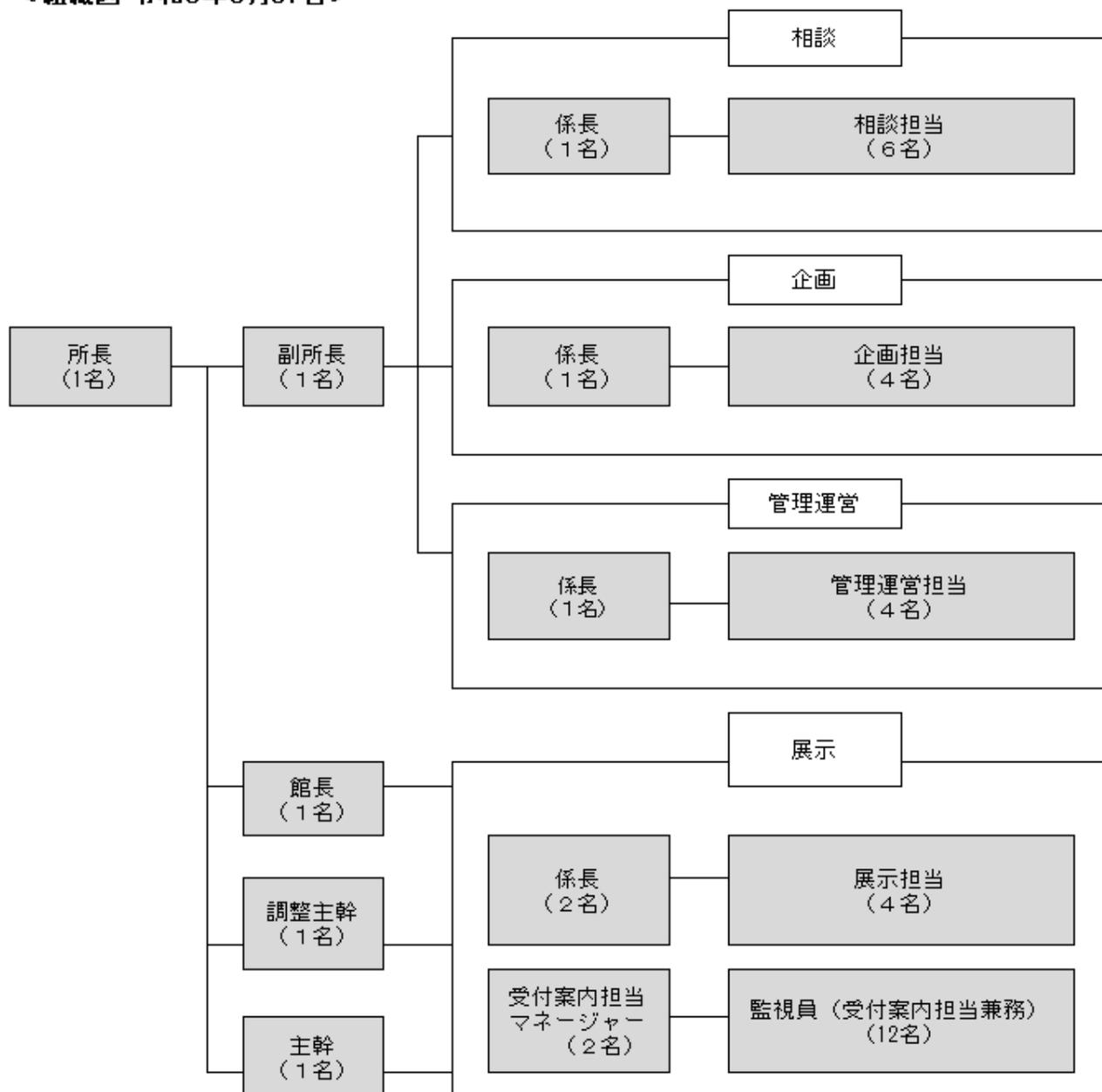
1. 指定管理業務の実施状況

(1) 施設の運営体制

○職員配置状況

- ・公の施設の管理者として、施設の設置目的や事業内容を十分に理解して運営を行うとともに、日常業務で得た情報や集計・統計データ、調査・研究の成果等を大阪市の住宅政策の企画・立案に反映させるという重要な役割を担うことができ得る職員を配置した。

<組織図 令和6年3月31日>



【障がい者雇用状況】（令和5年6月1日現在）

- ・大阪市住宅供給公社

雇用人数 265名　うち障がい者数 10名　（雇用率 3.77%）

- ・アクティオ株式会社

雇用人数 1267.5名　うち障がい者数 35.5名　（雇用率 2.80%）

※短時間労働者は0.5人として計算

○職員の勤務ローテーション

- ・住情報プラザ、大阪くらしの今昔館それぞれの開館時間や、ホール・研修室の開館時間が異なるが、ローテーション勤務とし、いずれの開館時間中どの時間帯でもサービスの質と安全性を確保した。
- ・毎月1回は全員出勤日を設け、ミーティング等による情報共有を行うことで、担当者間の連携を深め、円滑な事業推進や問題解決等を図った。

○研修の実施状況

- ・個人情報保護の研修や、人権問題等に関する研修を全職員対象に実施した。
- ・災害や人命救助の対応を的確に行えるよう、消防訓練や普通救命講習を実施した。
- ・センター事業で必要な、専門的な知識や最新の情報を得るため、他団体が主催する住まい関連のセミナー、講座等にも参加し、入手した資料については、ミーティング等を通じて組織内で情報の共有化を図った。
- ・大阪くらしの今昔館の案内・受付員については、アクティオにおいて新人研修、スキルアップ研修、接遇・対応研修、人権研修等を実施した。

（2）維持管理に係る事項等

○日常点検、事故防止対策等

- ・事故や故障等を未然に防ぐため、職員による施設内の巡回に加え、開館前、閉館後の住情報プラザや大阪くらしの今昔館の設備等の点検を実施した。
- ・ホール、研修室等については、利用前に設備等の動作確認を行い、利用後には設備の作動不良や備品等に汚損などが無いか、毎回点検した。
- ・万一の場合に備えるため、大阪市が加入している施設賠償責任保険に加えて、レジャー・サービス施設費用保険や業務遂行に起因する法律上の賠償責任の補償を対象とした施設所有管理者賠償責任保険に加入している。

【維持管理業務の実施項目】

- ① 貸室のAV設備の保守点検等（年1回実施）
3階ホール・5階研修室AV設備保守点検
- ② 常設展示室修復業務（年1回実施）
常設展示室 町家、道路等その他の補修及び清掃
- ③ 展示室の蒸気加湿器保守点検業務（年2回実施）
配線・基盤等の点検、シリンダー等の清掃及び交換
- ④ 展示機器の保守点検業務（年1回実施）
機器の各種動作確認、消耗品の劣化状況確認及び交換
- ⑤ 特別収蔵庫（年2回）・収蔵庫・展示室（年1回実施）くん蒸業務
特別収蔵庫・第1収蔵庫・第2収蔵庫・収蔵庫前室・9階常設展示室の密封くん蒸
法による害虫・カビの駆除
- ⑥ 管球類、消耗品などの交換・補充（随時）
蛍光灯や展示ケース内の調湿保存剤など交換、補充

○危機管理体制

ア. 火災への対策

- ・当建物全体の入居者とともに、消防訓練を2回実施した。
- ・火災時を想定した役割分担を作成し、対応マニュアル、避難経路図、及び緊急連絡系統図を職員に配付・周知し体制を整えた。

イ. 地震への対策

- ・住情報プラザおよび大阪くらしの今昔館に、最寄りの避難所までの案内図を掲示している。
- ・平成23年3月の東日本大震災の教訓を踏まえ作成した「地震時における住まい情報センター職員の行動マニュアル」に基づき、非常時に迅速に行動できる体制としている。

ウ. 暴風警報発令時の対応

- ・暴風警報発令時および台風接近時の対応については、「暴風警報発令に伴う事業の休止等の取り扱いについて」に基づき、セミナー・シンポジウムの中止や、大阪くらしの今昔館の臨時休館の判断を行い、来館者やセミナー参加予定者に周知した。

エ. その他緊急時の対応

- ・住情報プラザ及び大阪くらしの今昔館にAEDが設置されており、事故発生時における職員の緊急連絡網および対応マニュアル、セミナー開催時における緊急対応マニュアルを作成し、職員に配付・周知した。
- ・大阪くらしの今昔館では、火災や地震等の災害時に加え、不審者・不審物への対応や急病人・負傷者への対応等について、緊急時に安全かつ迅速に対応するため「緊急対応ポケットメモ」を作成し、各職員に配付した。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対策（令和5年5月7日までの対策）（一部は継続実施）

- ・施設入口に消毒液を設置し、動線を明示することで来館者が消毒しやすい環境を整備した。
- ・接触感染対策として、人の手が触れる箇所の消毒を毎日実施した。
- ・「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（業種別ガイドライン）」を遵守している施設であることを示す「感染防止宣言ステッカー」を掲出した。
- ・各事業運営にかかる、会議、取材、打合せなどは可能な限りオンラインで実施した。
- ・相談事業では、相談員はマスクを着用し、飛沫防止のため窓口にアクリル板を設置し、相談カウンターは消毒液により定期的な清拭を実施した。
- ・普及・啓発事業及び住まい・まちづくりネットワーク事業では、全てのセミナーを会場とオンラインによるハイブリッドで開催した。
- ・セミナーに際しては会場入室の前に受講者に検温、手指消毒をご協力いただき、会場の出入口を開放し換気を実施した。
- ・ライブラリー事業では、ライブラリー内の座席を消毒液で定期的に清拭し、受付カウンターにはアクリル板によるパーテーションを設置した。その他、館内にダンボール製の「返却ポスト」を設置し、返却図書は数日間保管後に棚へ戻した。
- ・ホール・研修室の運営事業では、貸室入口への消毒液を設置し、机や椅子の背もたれ、ドアノブ、呼出ボタン等の消毒を毎日実施した。
- ・貸室内の対人距離を確保できるよう、使用人数制限及びレイアウト変更を実施した。
- ・ホール・研修室の利用者が演台の登壇者の前に設置できるよう、飛沫防止パーテーションの貸し出しを実施した。

○設備等の更新

- ・住情報プラザ及び大阪くらしの今昔館における Wi-Fi 接続環境を整備した。
- ・住情報プラザ備品（椅子）を更新した。

（3）施設の有効利用

○住情報プラザを活用した情報提供

- ・大阪市の施策やセミナー等関連のテーマでパネル展を10回開催した。
- ・住情報プラザのスペースを活用し、住まいの体験コーナーや24区情報コーナー等の各種情報提供コーナーを設置し、行政や専門家団体等が発行したリーフレット等を中心に配架している。
- ・また、約550種類の資料等について、目的別に分類して分かりやすく配架した。
- ・出入り口付近に設置した「有料パンフレットラック」について、地元商店街で実施するイベント等のお知らせは無料で配架することを可能とし、柔軟な情報提供の場として活用できた。

2. 各事業の実施報告

(1) 相談事業

① 実施状況・実績

- ・住まいの一般相談では、公的賃貸住宅の募集情報、住まい探しや住み替えの相談、住まいの売買、建築、賃貸借、リフォーム、住まいの税金、住宅ローン、相隣トラブル、分譲マンション管理など、住まいに関するさまざまな相談に相談員が窓口および電話で対応した。
- ・公的賃貸住宅や民間賃貸住宅の情報はじめ、賃貸借・売買等に関する情報、建築・リフォーム等に関する技術的な情報、分譲マンション管理特有の課題に関する情報など住まいに関する情報提供を行った。
- ・専門家による対応が必要と考えられる相談については、専門家相談（法律、建築・リフォーム、資金計画、分譲マンション管理）で対応するほか、他の適切な機関等を紹介した。

○コロナ禍における相談事業の取り組み

- ・感染予防のため、相談カウンターにアクリル板を設置し、相談員のマスク着用や、相談カウンターの定期的な拭き取り消毒を行うとともに、待合椅子は間隔を保って設置するなどの対策を講じ、対面での相談対応を実施した。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」において、住まいに関する新型コロナウイルス感染症関連情報のページを作成し、大阪市や国の支援制度等の各種料金の支払い猶予措置など、コロナ禍での生活に役立つ幅広い情報を発信し、定期的に更新を行った。
(R6.3.4まで)
- ・住情報プラザにおいて、「新型コロナウイルス感染症関連情報コーナー」を設け、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」において発信している情報をプリントアウトした資料等を配架した。(R6.3.4まで)

○住まいの一般相談の実施

- ・公平かつ中立的な立場で、住まいに関する様々な相談に相談員が対応した。相談を実施する際は、まず相談者の話をお聴きして、問題解決に有効な情報提供や解決方法の提案、専門家相談の活用により支援を行った。なお、外国人には電話を利用した三者間通話による通訳を活用し、聴覚障がい者には筆談で対応した。
- ・相談の類型としては、公的賃貸住宅への住み替え相談、賃貸借の修繕や原状回復によるトラブル、売買の一般的注意事項、建築リフォーム、敷地境界や騒音などの相隣トラブルに関する事などが多くを占めた。また、新型コロナウイルスの影響による相談に関

しては、必要な情報収集を行い対応した。

住まいの一般相談件数（情報提供含む）

来訪	電話	計
18,227	15,589	33,816

○住まいの専門家相談の実施

- ・専門性が高く、高度な相談については、弁護士、建築士、ファイナンシャル・プランナー、マンション管理士による個別相談を実施した。
- ・専門家相談は、一般相談で事前に相談員が相談内容を聴き取って整理し、専門家相談の流れや持参資料の案内を行った。また、専門家には相談員から相談内容の概略を伝え、より有意義な相談を行えるように支援した。

●住まいの法律相談	毎週 土曜日に実施（30分/組×6組）
●建築・リフォーム相談	隔週 土曜日に実施（40分/組×4組）
●住まいの資金計画相談	隔週 土曜日に実施（40分/組×2組）
●分譲マンション相談	
・ 法律相談	：月1回 日曜日に実施（45分/組×3組）
・ 管理一般相談	：毎週 木曜日に実施（45分/組×4組）
●マンション管理支援機構と共催の相談会	
・ 法律相談	：年2回（45分/組×6組）
・ 技術相談	：年2回（45分/組×3組）
・ マンション管理一般相談	：年2回（45分/組×3組）

住まいの専門家相談件数

法律	建築・ リフォーム	資金計画	マンション 管理	計
268	68	27	172	535

- ・定例的に実施する法律相談に加えて、窓口に来ることが困難である場合や夜間にしか相談する時間が取れないなどの市民のニーズに応えるため、オンラインによるナイトー法律相談（住まいの法律相談）を1回実施した。
- ・関連団体との連携による専門家相談として、近畿税理士会による税務相談、公益社団法人大阪府建築士会による日曜建築相談を実施した。

○相談データの活用

- ・対応した相談については、住まい情報センター管理運営システム内の「相談対応サブシステム」に入力してデータベース化し、内容を定期的に大阪市に報告した。

- ・相談データの分析から、セミナー・イベント等のテーマ設定や企画、資料展示及び「大阪すまいラボ」において、相談担当としての助言を行うなど、担当者間で積極的な意見交換を行った。

○相談対応の充実

- ・分譲マンション管理に関する相談で、専門的な知識が必要な相談事項については、大阪市マンション管理支援機構を構成する専門家団体からのアドバイスを参考にした。
- ・住まい関連の相談経験が豊富なアドバイザーを招き、月1回程度の定期的な勉強会を開催するとともに、相談対応のノウハウを蓄積した相談員向けマニュアルの内容を拡充し、相談対応の効率化と市民サービスの向上を図った。
- ・常に住まいに関する最新情報を収集し共有するとともに、相談員間での定期的な情報交換や、勉強会等を実施し、相談対応技能の向上を図り、高度な相談に対応できるよう努めた。

○住まい・まちづくり教育への取り組み

- ・「未来のおうち」等をテーマに、想像力や考える力を養う子ども向けの住教育を実施し、その内容をインスタグラムを用いて情報発信した。8/11～8/31には夏休み特別企画として「とんがり帽子のおうち2」を実施。提供いただいた廃棄予定のクッションフロアや壁紙、カーテン生地などの材料を利用して、楽しく学びながらおうち作りをする機会を提供した。10/15のライブラリー主催「親子で楽しむ♪おはなし会&みんなでおうちをつくろう！」イベントにおいて、企画担当と連携しおうち作り体験の機会を提供した。

② 相談事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○相談窓口のネットワークの構築

- ・大阪市・神戸市・京都市の三都連携事業会議において、「まちの暮らしを面白くする、空き家活用という生き方」をテーマとする勉強会に参加した。
- ・都市整備局安心居住課主催の「地域の居住支援連携の促進に向けた情報交換会」に参加し、当センターにおける住宅確保要配慮者からの相談事例について紹介した。
- ・大阪簡易裁判所による住まい情報センター相談員のための裁判所見学会に参加し、少額訴訟及び民事調停制度のレクチャーを受講し、裁判官等との座談会にて意見交換を行った。
- ・区役所に出張し窓口担当者と、複合的なトラブルを抱えた相談者対応について事例や課題を共有、意見交換を行った。

○資料の充実と探しやすさ、わかりやすさへの工夫

- ・相談担当は直接来館者と接するため、館内の催しを的確に案内することに努めた。

- ・相談者が情報にたどり着きやすくするために、センター内の約 550 種類の資料を、目的別コーナーに分類し、案内表示を行った。
- ・「住まいの子育てコーナー」では、大阪市子育て安心マンション認定制度を始めとする大阪市の子育て世帯向け住宅支援制度のほか、住宅金融支援機構のフラット 35 地域連携型や、国民生活センター発行の子どもが巻き込まれやすいくらしの危険の啓発リーフレット、大阪市こども相談センターリーフレットなどの資料を配架した。
- ・「高齢者情報コーナー」では、サービス付き高齢者向け住宅情報や、セーフティネット住宅登録情報、居住支援法人情報などの資料を配架した。
- ・ミュージアム担当と連携し、住情報プラザ内に「大阪くらしの今昔館コーナー」を設け、来館者に大阪くらしの今昔館を紹介した。
- ・「防災コーナー」では、防災マップ、ハザードマップをはじめ、防災関連資料を配架し、市民への啓発に努めた。
- ・国家資格（宅地建物取引士、マンション管理士、管理業務主任者）試験申込書を配布した。
- ・「おおさか・あんじゅ・ネット」にある、基本的なアドバイスと役立つリンク先等を取りまとめたコンテンツ「相談員からのアドバイス」、「知っておきたい住まいの情報」を、収集したデータをもとに更新した。

○公営住宅募集案内の充実

- ・市営住宅募集センター指定管理者による勉強会に参加し、定期募集の応募への相談や、申込書の配布等の情報提供に協力した。
- ・住情報プラザに申込書記載コーナーを設け、ゆっくり座って応募団地の検討や申込書の記入をしていただけるように協力した。申込に関する相談対応や、最寄り駅からのアクセスや周辺施設がすぐにわかる市営住宅団地分布図を独自に作成し情報提供を行うなど、市民サービスの向上に努めた。
- ・市営住宅の定期募集時期以外についても、入居希望者の相談に応じ、定期募集や随時募集受付窓口案内など、適切に対応した。

(2) 普及・啓発事業

① 実施状況・実績

- ・子育て層や若者、シニアまで幅広い層をターゲットに、住まいづくり・住生活のノウハウから住まいの歴史・文化まで、さまざまなテーマで各種セミナーやワークショップの開催、パネル展示等を行った。
- ・相談事業に寄せられた相談内容を踏まえたテーマ設定や、展示事業と連携した魅力的なイ

ベント開催など、市民ニーズを捉えたテーマ選定・セミナー内容の充実に努めた。

- ・聴覚に障がいのある方への配慮のため、手話通訳に対応できる体制を確保した。
- ・セミナー後に実施したアンケートでは、セミナー参加者の満足度が 98%を超え、質の高いセミナーが実施できた。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対策（令和5年5月7日まで）

（一部は継続実施）

- ・普及・啓発事業及び住まいまちづくりネットワーク事業では、セミナーは全て会場とオンラインのハイブリッド方式で実施した。
- ・セミナーに際しては会場入室の前に受講者に検温、手指消毒をご協力いただき、会場の出入口を開放し換気を実施した。

○令和5年度セミナー実績：総開催回数 68回 参加者総数 2,850人

事業	実施回数	定員		申込者数	参加者数		
		会場	オンライン		会場	オンライン	合計
住まいの基礎知識セミナー	21	850	1700	1034	351	311	662
住まいと暮らしのワークショップ	3	84	—	211	83	—	83
シンポジウム	1	100	—	82	65	—	65
ブックトークサロン	1	50	—	140	45	—	45
おはなし会	2	20	—	57	18	—	18
リサイクルブックフェア	1	100	—	282	88	—	88
連携企画	1	100	—	191	147	—	147
自主事業	1	150	—	178	136	—	136
今昔館関連イベント	11	—	—	—	290	—	290
タイアップ事業 (交流会を含む)	16	940	900	1339	664	279	943
共催事業	3	—	—	—	126	98	224
出前講座	7	—	—	—	149	—	149
合計	68	2394	2600	3514	2162	688	2850

○令和5年度に実施した主なセミナー・イベント

住まいの基礎知識セミナー

テーマ：連続講座「住まいを購入する」

【第1回】住まいのお金編①「資金計画と住宅ローン」

【第2回】住まい探し編「はじめての住宅購入～自分に合った住まい探し～」

【第3回】戸建住宅編「戸建住宅を購入する／つくる・リノベーションする」（2部構成）

【第4回】分譲マンション編「分譲マンションを購入する／リノベーションする」（2部構成）

【第5回】住まいの省エネ編「省エネな住まいづくり」

【第6回】住まいの契約編「重要事項説明と契約」（2部構成）

【第7回】住まいのお金編②「税金と確定申告」

（計10回実施）

参加者数：（会場）136人、（オンライン）140人

はじめて住宅を購入しようとしている方を対象とした連続講座。住宅購入に必要な知識を、テーマを分けてシリーズ化して実施した。令和5年度は住まいの省エネ編を新たに加えて実施した。

住まいと暮らしのワークショップ

テーマ：親と子の都市と建築教室2023「地球とともに暮らすまちをつくろう！」（計2回）

参加者数：1回目28人、2回目29人

夏休み期間中、小学生を対象に、日本建築学会と大阪府建築士会との共催で、若手建築士や大学生などと一緒に、ダンボールを使って、地球とともに暮らす“まち”をつくり、ものづくりの楽しさを学ぶワークショップを実施した。

第10回大阪市ハウジングデザインシンポジウム

テーマ：「これまでの大阪市ハウジングデザイン賞と都市型集合住宅のこれから」

参加者数：65人

大阪市ハウジングデザイン賞表彰イベントとして開催されて10回目の節目を迎えたシンポジウムでは、これまでの受賞者とともに過去の受賞住宅をふりかえりながらこれからの都市型集合住宅に求められるものについて考えた。

住まい情報センターの事業間連携企画

テーマ：「のぞいてみよう！江戸時代の大坂の暮らし」

参加者数：（会場）147人

住まい情報センターの普及・啓発事業担当、相談担当、ミュージアム学芸担当による

連携企画として、江戸時代の大坂の庶民の暮らしについて、家請人仲間の事例を中心に紹介し、大阪くらしの今昔館が所蔵する史料や、住まい情報センターに寄せられる住まいに関する相談事例から、江戸時代と現代に共通する都市居住の問題を抽出し、都市居住の抱える問題に先人がどのように取り組んだのか、知恵と工夫を知り、その社会的意義を現代的視点から考えた。

共催事業

テーマ： 中高年女性の住まいを考える—住まいの貧困・居住支援の視点から—

参加者数：(会場) 67人、(オンライン) 51人

大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館との共催により、女性の暮らし方や生き方の多様化にも深くかかわる「住まい」をテーマに、現代の住宅事情や国の住宅政策、セーフティーネットとしての公共住宅、DV や離婚等による女性ならではの困難にまつわる視点から、「中高年女性の住まいのこれから」について、事例を通して考えるシンポジウムを開催した。

○パネル展等による情報提供

- ・大阪市の施策やセミナー関連のテーマを主としたパネル展を 10 回開催したほか、大阪 24 区の情報や地域魅力情報、イベント紹介など住情報プラザを訪れる方に広く情報提供した。

実施期間	パネル展示タイトル
4月1日～5月10日	住むまち大阪スタイル人
5月11日～6月19日	第36回大阪市ハウジングデザイン賞推薦募集
6月21日～7月31日	大雨や台風に備えて
8月2日～8月31日	まちをつくろう！
9月1日～9月30日	防災月間パネル展「自然災害に備えよう」
10月1日～10月31日	【住生活月間】住まいの事例展～新築・リフォーム・リノベーション
11月1日～11月19日	第13回オープンナガヤ大阪2023
11月20日～1月22日	日本全国タイル遊覧
1月24日～2月29日	大阪市ハウジングデザイン賞受賞住宅
3月1日～3月31日	住むまち大阪スタイル人

② 普及・啓発事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○市民ニーズを踏まえた事業の実施

- ・セミナー開催時に参加者アンケートを行い、満足度や希望テーマを把握し、以降のセミ

ナーの企画立案や会場運営の参考とした。

- ・センターに寄せられた相談内容の分析・課題抽出をふまえ、「タイアップ+（プラス）事業」の募集テーマに「防災」や「空き家対策」、「住宅セーフティネット」、「省エネ・脱炭素」などを設定することで、利用者が求めるテーマを反映したセミナーを実施できた。

○多彩な広報活動の実施

- ・区役所等の公共施設への配架依頼や、Osaka Metro 42 駅に設置された広報掲示板へのポスター掲出とチラシの配架を定期的に行い、幅広く市民の方々に広報することでセミナーやイベントの周知を図った。
- ・広報期間を2ヶ月以上確保すると同時に、セミナー内容と関連する公共施設へチラシ設置を依頼するなど、参加者増につながる取り組みを行った。
- ・新聞・報道関係者に対しプレスリリースを行い、セミナー等の周知を図った。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」によるイベントの告知及び参加申込の受付、メールによる参加証の送付など、インターネットを活用した広報により、市民の利便性の向上につなげた。
- ・新着イベント情報をメールマガジンを活用して配信し、登録者数は4,185人となった。メールマガジンは、いち早くイベント情報が届き、受信メールから簡単にイベントへの申し込みができるもので、会員から好評を得ている。

参加申込フォーム利用によるイベント申込者数

期間	参加申込者 総数 (A)	フォームからの 申込者数 (B)	B/A
令和5年度	3,619人	2,978人※	82.3%

※「おおさか・あんじゅ・ネット」の参加申込フォーム利用による参加申込者数

○共催事業の積極的な実施

- ・他団体等との連携・共催事業を実施しており、それぞれの強みや良さを活かしつつ、より効果的な普及啓発やセンターのPRを行っている。
- ・オープンナガヤ大阪 2023 実行委員会、大阪公立大学長屋保全研究会と共催で、大阪の長屋の活用事例を紹介するイベント「第13回 オープンナガヤ大阪 2023」を開催した。住情報プラザでのパネル展示やフライヤーを配架するなど広報面での協力を行った。

○他施設等との連携

- ・大阪市・神戸市・京都市の三都市の公的な住情報センターによる三都連携事業について、「まちの暮らしを面白くする、空き家活用という生き方～本当の宝は、みんなが振り向かない場所にある。」をテーマに、大阪・京都・神戸のトップランナー3名から空き家活用の魅力や事例から得た学びを紹介するトークイベントを神戸市で実施した。

(3) 広報事業

① 実施状況・実績

- ・住まいのガイドブック「あんじゅ」の発行や、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」の運営により、大阪市の住宅施策の案内や、居住地としての大阪市の魅力紹介、住まい・暮らしに役立つ記事を掲載した。
- ・「あんじゅ」は、取材した情報を発信する特集4ページ、専門家や著名人に寄稿を依頼するトピックス、コラム、住宅政策、大阪市立住まい情報センターの情報提供、今昔館ニュース（裏表紙含む）で構成した。
- ・令和6年1月発行の「あんじゅ」97号では、住まい情報センターと大阪くらしの今昔館の共同企画による「住まいのお悩み今昔」として、シンポジウム「のぞいてみよう！江戸時代の大坂の暮らし」をテーマにした特集を組み、塚田大阪市立大学名誉教授による基調講演と、今昔館学芸員と住まい情報センター相談担当による報告、パネルディスカッションの内容を記事として掲載し、情報発信を行った。
- ・センター事業の広報については、Osaka Metro 駅や公共施設での広報誌・案内チラシの配架や、当建物の掲示板等の活用、ウェブサイトからの情報提供など、幅広く周知を行った。

○大阪市住まいのガイドブック「あんじゅ」の発行

- ・「あんじゅ」の企画にあたっては、事業企画会議でアドバイザーより特集のテーマや掲載内容について意見やアドバイスをいただき、大阪市の担当部署、制作スタッフと共に編集会議を開催し、企画を行った。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」に掲載する際には、紙面では掲載できなかった写真や情報を追加し、充実を図った。

発行回数	発行部数	送付先
年4回 (各16ページ)	各1.5万部	市民利用施設、大学、博物館、大阪府下図書館等、 住むまち大阪スタイル人等

●第95号（令和5年7月発行）

特集：都市の中の公共空間～オープンスペース・公開空地～

大阪くらしの今昔館 news：会話を誘い出す天神祭—おもてなしの仕掛け—
ハレの演出と飾瓶子

トピックス：住まいの防災 自然災害と損害保険「住まいに関する保険」

●第96号（令和5年10月発行）

特集：居場所として再生される「空家」

大阪くらしの今昔館 news：作家インタビュー 重岡良子 花鳥画展

—伝統の中の日本画から明日へ—によせて

悦子さんたちの化粧直し「住まい劇場」の人形修復

トピックス：省エネな住まいづくり

コラム：災害にそなえて 第1回「住まいの維持管理」

●第 97 号（令和 6 年 1 月発行）

特集：のぞいてみよう！江戸時代の大阪の暮らし 大坂から大阪へ。

都市に住まう庶民の生活の知恵一報告

大阪くらしの今昔館 news：職人尽凶屏風

船場の商家廣野家の花嫁衣裳

トピックス：地震に強い家のつくり方

コラム：災害にそなえて 第 2 回「水と大阪の住まい・まち」

●第 98 号（令和 6 年 3 月発行）

特集：これまでの大阪市ハウジングデザイン賞と都市型集合住宅のこれから

大阪くらしの今昔館 news：企画展「船場花嫁物語Ⅱ」レポート

大阪くらしの今昔館 新収蔵品 桜下美人図

コラム：災害にそなえて 第 3 回「避難と住まいの再建」

○ウェブサイトの効果的な運用

- ・住まい情報センターからのお知らせ、住まいのニュース、住まいの相談のページでは、住まいに関する新型コロナウイルス感染症対策関連（令和 6 年 3 月 4 日まで）、住まいに関する法律や制度の改正、大阪市の住宅施策情報をタイムリーに発信した。
- ・また、「大阪すまいラボ」の防災プロジェクトで作成した「災害に備えて住まいのためにできること」のページを公開した。
- ・大阪くらしの今昔館ウェブサイトでは、カレンダーにも展示コンテンツを掲示、メルマガ登録者へ企画展情報を自動配信、町家衆へのお知らせをボランティア登録したアドレスに一斉配信するなどの広報を実施した。
- ・X（エックス）、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）なども活用し、イベントやライブラリーの案内や報告をするなど、幅広く効果的な情報発信を行った。
- ・タイアップ事業やライブラリー事業で実施したセミナーについて、Facebook で掲載・報告し、「おおさか・あんじゅ・ネット」へ誘導するなど、情報発信ツール間の連携を図った。

○センター事業の発信

- ・Osaka Metro 42 駅において、広報ラックへの「あんじゅ」、セミナーチラシの配架、大阪くらしの今昔館のポスター掲示・チラシ配架を行った。なお、セミナーチラシの裏面に相談事業・貸室等の案内を掲載し、広報に努めた。

【Osaka Metro 駅広告】

- ・Osaka Metro 「天神橋筋六丁目」駅構内 2 箇所の電照広告枠に住まい情報センターの広告を掲示

【Osaka Metro 駅広報】

- ・Osaka Metro 42 駅構内の掲示板でポスターを掲示し、セミナーや企画展のチラシを配架
- ・最寄駅である「JR 天満駅」の協力のもと、駅構内において大阪くらしの今昔館の案内

ポスターを掲示していただき、PR活動に努めた。

- ・住まい情報センター地下1階・1階の電子掲示板や地下1階出入口、1階出入口、3階ホール、8階ミュージアムに設置されている掲示板等を活用し、セミナーやイベントの開催時期や内容を取りまとめた一覧表を掲示し、わかりやすい広報に努めた。
- ・住まい情報センター1階の公開空地（ロトнда内）に設置された展示ケース、ポスター掲示板を活用してセミナー・イベント情報や折々の企画展やイベントに合わせた展示により施設のPRを積極的に行い、通行する人々にセンターをアピールした。
- ・セミナー等については、広く市民の方々に参加いただけるよう、市民利用施設でのチラシ・リーフレット設置や市の広報紙等への掲載に加えて、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」を活用し広く情報発信を行った。
- ・住まい情報センター1階に、デジタルサイネージを設置し、住まい情報センターおよび大阪くらしの今昔館をPR動画でアピールした。

○「年報」、「紀要・館報」などの発行

- ・住まい情報センター事業の一年間の取組内容を取りまとめた「年報」や、大阪くらしの今昔館の研究成果を取りまとめた「紀要・館報」を発行し、市民情報プラザや図書館に送付した。また、住まい情報センターに視察・ヒアリングに訪れる方に対しての情報提供にも活用した。

【発行部数】 「年報」：400部 「紀要・館報」：600部

○「キャラクター」を活用した広報

- ・セミナーや展示等のチラシ、ウェブサイトの各種コンテンツ、住情報プラザの各種コーナー等において、住まい情報センターのキャラクター「すまじょーくん」を活用し、親しみのある施設としてのPRに努めた。
- ・住まいのライブラリーのキャラクター「すまいまる」をライブラリーの周知に活用した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、住まいの体験コーナーが閉鎖されている間も、子どもが自分でデザインしたミニハウスの作品やキットを持ち帰る際、透明のビニール袋にセンターロゴと「すまじょーくん」を配したタグをつけた袋を渡し、手に提げて歩いていただくことでセンターのPRに努めた。



「すまじょーくん」と「すまいまる」

② 広報事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○認知経路を踏まえた広報の強化

- ・各セミナーにおけるアンケート調査の結果をみると、セミナー情報の入手方法としてインターネット（メルマガ、ウェブサイト）やチラシのほか、大阪市発行の広報紙によるものが多いことから、ウェブサイトや大阪市の広報部署に対し、情報発信を積極的に行った。
- ・大阪くらしの今昔館の各企画展については、近郊の住民への周知のため新聞広告やウェブサイトなどに掲載した。
- ・夏休み期間の子ども向けセミナーやイベント等については、市内の小学校に配布される広報紙に依頼するなど、ターゲットにあった広報に努めた。
- ・地元商店会と連携し、広報紙あんじゅやセミナーチラシ、リーフレットなどについて、商店街の掲示板を利用して配架・掲示し、情報発信を行った。

(4) ライブラリー事業

① 実施状況・実績

- ・「住まい」「建築」や「住むまち・大阪」をテーマに図書・雑誌・機関誌・市発行の資料・企業広報誌・地域情報誌・ビデオ・DVD等を収集、配架するほか、子どもコーナーには親子で楽しめる住まい・くらしの児童書を揃え、「ライブラリー利用規則」に基づき適切に運営を行った。（令和5年度購入冊数 259冊（新聞、雑誌を除く））
- ・蔵書については、住まい情報センターに寄せられた相談内容の分析や利用者からの声、新聞等の紹介記事等も踏まえて図書の選定を行うとともに、図書管理システムにおいて適切に管理した。
- ・大阪市マンション管理支援機構との連携により、マンション管理関連図書を配架し、資料の充実を図った。
- ・相談事業でよく受ける相談内容や、普及・啓発事業で行っているセミナー、大阪くらしの今昔館で開催している企画展など、各事業の関連図書を企画図書としてテーマを設定して展示し、多くの貸出利用があった。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対策（令和5年5月7日までの対策）（一部は継続）

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策として、ライブラリー内をアルコール消毒液で定期的に清拭し、受付カウンターにはアクリル板によるパーテーションを設置した。その他、館内にダンボール製の「返却ポスト」の設置を行った。返却図書は数日間保管後に棚へ戻した。

○利用状況等

- ・入館者数：30,343人（一日平均：101人）
- ・新規登録者数：241名
- ・図書貸し出し数：4,163冊
- ・蔵書数（令和6年3月31日現在） 図書：12,777冊 雑誌等：179タイトル

種別	住まい 住環境	住文化 住教育	建築 都市	住まち ・大阪	絵本・ 児童書	参考 図書	雑誌	機関誌	企業 広報誌	ミニコ ミ誌	ビデオ DVD
冊数	3,953	892	2,294	3,099	1,186	1,353	(56)	(54)	(18)	(51)	(266)

※（ ）雑誌等、ビデオはタイトル数を示す

○企画図書の展示

実施期間	企画図書テーマ
4月1日～4月18日	防災対策
4月19日～6月10日	住まいを購入する前後に、知っておきたいことは？
6月11日～6月26日	省エネな住まいづくり
6月27日～7月21日	重要事項説明と契約
7月22日～8月16日	空き家相談のコツ
8月17日～10月5日	自然災害の備え
10月6日～11月25日	住まいの維持管理
11月26日～12月9日	住まいの維持管理ー大家向けの税金ー
12月10日～12月17日	シェア居住
12月18日～1月31日	空き家対策
2月1日～2月18日	集合住宅の本を集めてみました
2月19日～3月13日	省エネ対策
3月14日～3月31日	住まいを買う前に読みたい本

○ライブラリー関連イベントの開催実績

- ・ライブラリーの利用促進につなげるため、「日本全国タイトル遊覧」をテーマ図書としたブックトークサロンを開催、当該図書の展示を行った。
- ・情報が古く配架しなくなった本を市民に提供するリサイクルブックフェアを開催した。初日の1月20日は参加を募集し、ホールで開催した。1月21日以降はライブラリー入口付近にて継続開催した。

リサイクルブックフェア 実施期間	利用者数	持ち帰り冊数
1月20日～2月29日	122	626

○ライブラリーボランティアの活動実績

・令和6年3月末現在、54名が登録されており、主な活動として、図書の貸出・返却の受付、図書の配架、場内の書棚の整理、ライブラリー内の来館者案内を行っている。

② ライブラリー事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

- ・セミナーの関連図書リストの配付や、大阪くらしの今昔館の企画展の関連図書リストの掲示・配布、ライブラリーでの企画図書展示など、センターにおける他事業と連携した一体的な運営により施設全体の利用促進につなげた。
- ・図書持ち帰り用紙袋の提供を実施した。
- ・ミュージアム図録コーナーや新着図書コーナー、「大阪ほんま本大賞（大阪の本屋と問屋が選んだ、ほんまに読んでほしい本）受賞作品」コーナー、「安藤忠雄」コーナー、「大阪万博」コーナーを設置することで、大阪のまちの魅力を紹介した。
- ・ライブラリー内でのミニ展示として、「長屋のくらし」・「建築家コーナー」や、セミナーや今昔館の企画展に関連した「集合住宅の本を集めてみました」「文様彩集」「船場花嫁物語Ⅱ」、ブックトークサロン「日本全国タイル遊覧」などの関連図書を展示した。
- ・図書館総合展「こんなにあります！あなたも使える専門図書館 2023」公式サイト内特設ページ・オンライン展示に「住まいのライブラリー」を掲載した。

(5) ホール・研修室等の運営事業

① 実施概要・実績

- ・3階ホールと5階研修室は、住まい情報センター主催のイベントやセミナー等に使用し、それ以外の時間帯については、「ホール研修室の使用案内」に基づき一般使用についても広く受け付けた。
- ・建築関係団体などの住まい関連イベントに活用されているほか、研修やサークル活動などにも広く使用された。
- ・受付開始日に複数の申し込みがあった場合は公開抽選を行い、平等使用の確保に努めた。
- ・10月1日から、インターネットによる予約受付を開始した。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する対策（令和5年5月7日まで）

- ・感染状況に合わせて対人距離を確保できるよう貸室の使用人数制限及びレイアウト変更を実施した。

- ・貸室使用後は、机や椅子の背もたれなど手の触れるところの消毒を行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止を理由として貸室をキャンセルされた場合は、市有施設におけるイベント等のキャンセル料の取り扱いに基づいて使用料を還付した。
- ・貸室使用申込において、感染拡大予防の遵守事項を周知し、誓約のうえ受け付けた。

○令和5年度のホール・研修室使用状況

貸室の種類	使用コマ数	使用可能コマ総数	平均使用率 (%)
ホール	561	838	66.9
研修室	507	838	60.5

② ホール・研修室等運営事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

ホール及び研修室の利用率の向上のため引き続き次のとおり取り組みを実施した。

- ・ホールと研修室（会議室）を同時使用する場合の使用料金割引
- ・ホール使用予定日の1か月前を過ぎて受付する場合の使用料金割引
- ・ホール・研修室を終日使用する場合の使用料金割引
- ・附属設備の一部割引
- ・ホールと研修室（会議室）での飲食利用の受入れ（別途特別清掃料を徴収）
- ・「QRコード」を活用した使用案内のチラシ・ポスターを作成し、Osaka Metro42 駅において、広報ラックの活用及び関係団体への設置依頼等による周知活動
- ・ホール等の平面図や写真に加え、レイアウトや机・座席の配置のパターンをウェブサイト上で紹介することで、多様な使用目的に対応できる施設であることをPR
- ・インターネットの貸室検索サイトを用いた情報発信
- ・天神橋筋商店街の情報掲示板で「貸ホール・貸研修室」の周知
- ・イベント開催時の荷物等事前預りサービス、発送サービスを行った。
- ・貸室使用後に発生したごみを引取るサービスを行った。
- ・予約済みの貸室において、希望者にはキャンセル待ちサービスを行った。

(6) 展示事業

① 実施状況・実績

- ・令和5年度の入館者数は345,696人となった。新型コロナウイルス感染症の段階的な渡航制限の緩和や5類感染症への移行を受けて、来館者数が回復し、前年度の入館者数192,279人を大きく上回った。
- ・3月には平成13年4月26日の開館以来の入館者数が6,000,000人を超え、記念セレモニーを行った。

- ・常設展示の理解を深めるツールとして、クイズ形式で来館者自身で楽しみながら学ぶことができる「チャレンジオッター」の英語版を作成し、学習ツールの充実を図った。
- ・企画展は、「住まいと暮らし」をキーワードに、大阪画壇の絵画作品、大阪の生活文化、都市文化や所蔵品を中心とする工芸品などを取り上げ、幅広い時代と多彩なテーマで展示を行った。
- ・和の文化を体験するプレミアムイベント「船場のサロン文化を体験する～文人の茶会～」を開催。重要文化財旧小西家住宅の座敷に今昔館が所蔵する掛け軸を設えて、煎茶道一茶庵宗家の佃一輝氏を講師として、参加者に煎茶と美術品を鑑賞いただいた。
- ・高齢者大学や、大阪市立学習センターなどの依頼に対応し、学芸員特別講座や出張講演を8回実施した。
- ・事業間連携として、シンポジウム「のぞいてみよう！江戸時代の大坂の暮らし」の開催や、「SDGS 着物しおりプレゼント」などのイベントを実施した。

○入館者数（令和5年度）実績

（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22,860	29,229	25,528	31,965	33,372	20,734	28,667	22,756	22,840	36,256	37,214	34,275	345,696

○入館者数の推移

（人）

年度	H 13(※)	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19
入館者数	142,628	150,045	150,032	146,830	142,980	156,230	158,699
年度	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
入館者数	161,975	180,471	209,255	205,829	228,976	259,320	353,138
年度	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2	R3
入館者数	522,240	576,217	587,364	621,296	414,959	51,533	60,628
年度	R4	R5					
入館者数	192,279	345,696					

※平成13年4月26日開館

○常設展

- ・江戸時代の大坂の町を実物大で再現している9階常設展示室では、「商家の賑わい」の展示とし、年中行事にあわせた季節のしつらいとして誓文払い、正月飾り、節分、雛飾りを行った。また、収蔵品の絵屏風、掛け軸についても町家の座敷で公開した。

- ・映像とジオラマで近代以降の大阪の都市空間と住まいを紹介している8階常設展示室では、昭和30～40年代の世相を反映し、小ケース内に「ガスアイロン」と「電気アイロン」を置いてガスと電気を比較するなど来館者が興味を持ちやすいテーマで紹介した。

展示替え	概 要
商家の賑い	4月1日～16日、9月9日～3月31日
夏祭りの飾り	4月22日～9月3日
季節のしつらい	七夕飾り : 7月5日～7日 誓文払い : 10月15日～10月29日 正月飾り : 12月27日～28日、1月3日～15日 節分の飾り : 1月20日～2月4日 雛飾り : 2月23日～3月31日

○常設展示室等におけるイベント・ワークショップ

- ・「乙女文楽」「狂言」などの古典芸能や、「今昔館に初もうで」「今昔館祭り」などの様々なイベントを延べ27日間開催した。
- ・「万華鏡」「折り紙」「つまみ細工」「水引飾り」など様々な物作りワークショップを計222回開催した。
- ・感染症対策のため中止していた「着物体験」を5月17日に再開した。

○企画展

- ・「住まいと暮らし」をキーワードに、多彩なテーマによる企画展示を5回開催した。

五井金水とゆかりの画家たちー船場で愛された絵師の画房からー

会期：4月29日（土）～6月18日（日） 開催日数44日

入館者数：19,406人

- ・明治から昭和初期にかけて大阪で活躍した五井金水の作品を、今昔館に寄贈されたことを機に所蔵品を交えて初公開した。

天神祭と都市の彩り

会期：7月8日（土）～9月3日（日） 開催日数51日

入館者数：17,773人

- ・大阪天満宮が所蔵する天神祭に関する資料を公開し、円熟した町人文化のもとで育まれた都市祭礼の伝統と魅力を紹介した。

重岡良子花鳥画展－伝統の中の日本画から明日へ－

会期：9月16日（土）～11月5日（日） 開催日数 44日

入館者数：12,410人

- ・伝統的な手法にのっとり、数十年にわたって花鳥の写生を積み重ねてきた重岡良子の「秋冬」をテーマとした花鳥画を展示した。

船場花嫁物語Ⅱ

会期：12月9日（土）～令和6年2月12日（月・祝） 開催日数 53日

入館者数：23,080人

- ・船場の商家・廣野家が昭和14年に調えた嫁入り道具の中から着物を中心に紹介した。

文様彩集

会期：2月21日（水）～4月7日（日） 開催日数 41日

入館者数：15,932人

- ・今昔館が所蔵する近世・近代の資料の中から、魅力的な文様を展示し文様が織りなす多様な世界を紹介した。

○企画展関連の講演会等

- ・企画展では、関連イベントとして講演会やギャラリートーク、ワークショップを開催し、訪れた方に展示作品等の理解を深めていただけるよう工夫した。

講演会等の内容	実施日	参加人数
企画展「天神祭と都市の彩り」関連講演会 「高島幸次さんに聞く ほんまものの 天神祭」	7月9日	136人
企画展「重岡良子花鳥画展－伝統の中の日本画から明日へ－」ギャラリートーク	9月16日、18日、21日、27日 10月5日、8日、12日、19日、 26日、30日 11月2日、4日、5日	
企画展「重岡良子花鳥画展－伝統の中の日本画から明日へ－」ワークショップ	10月19日	15人
企画展「船場花嫁物語Ⅱ」ギャラリートーク	1月10日 2月4日	47人 68人

○資料収集・保管・修復

【購入】

・資料の購入にあたっては、資料評価委員会を設置し、資料の必要性、具体的な活用方法の評価や評価額の算定を行い、外部有識者の意見を聴取するなど幅広い観点から購入の妥当性について確認した。

- 桜下美人図 佐藤魚大 一幅
- 男女成育立身行道之図 菅楯彦 双幅
- 松茸山 五井金水 一幅
- 祝言繁盛帖 羽田月洲 一帖
- 浪花風俗十二月 2代長谷川貞信 一帖
- 浪花自慢名物尽 九枚
- 大日本大阪名所廻双六 一枚
- 絵入文章 大坂往来 一冊

【寄贈】

- 五井金水関連資料 一式

【寄贈（活用資料）】

- 道江家雛人形 五体
- 子ども用蚊帳 一点

・資料の寄贈の申出に関し、必要な受入事務を行った。

【資料の保管】

・資料の保管にあたっては、材質等に応じた適切な環境を保つとともに、セキュリティ対策も徹底した。

【資料の貸出し】

重要文化財「中井家関係資料」の貸出

- ・特別展「上方の家康」 大阪城天守閣 「中井正清像」 他 8点
- ・いしかわ百万石文化祭 2023 関連事業 「御殿の美」 石川県立歴史博物館 「行幸御殿并古御建物御取解不相成以前 二条御城中絵図」 1点
- ・NHK 大河ドラマ特別展「どうする家康」 静岡市美術館 「駿府城絵図」 1点

○研究成果

大阪の住居史・建築史研究

・大阪の長屋に関する研究と資料収集をおこなった。

大阪の美術に関する研究

- ・大阪画壇五井金水に関する研究

大阪の生活文化に関する研究

- ・館蔵資料工芸品の調査・研究
- ・寄託品、廣野カツ嫁入り道具（着物）に関する調査

研究事業の報告・広報

- ・年4回情報誌『あんじゅ』（一部をミュージアム関連記事で掲載）
- ・研究紀要・館報21号の発行

○ボランティア「町家衆」の活動

- ・町家衆には、町家ツアー・ワンポイントガイド・町家衆イベント・ワークショップなどの実施や、今昔館が主催する数々のイベント運営にご協力いただいた。
- ・新規ボランティアを募集する説明会を開催し、24名が参加、21名が新規ボランティアとして登録された。
- ・7月～9月にかけて、町家ツアー案内人としての活動を希望する方を対象に養成講座を実施し、新たに15名がツアー案内人として認定された。
- ・小学3年生を対象とした「体験学習」にご協力いただいた。（40日間、63回）
- ・ボランティア活動の成果を発揮する企画として3月24日に「今昔館祭り」を開催した。

町家ツアー案内人養成講座の開催

練習会 7月13日（木）、8月6日（日）、8月31日（木）、9月23日（土）

認定会 9月29日（金）、9月30日（土）

町家ツアー案内人新規認定者15名

新規ボランティア募集説明会

「今昔館についての説明」増井館長

2月12日（月・祝）、2月25日（日）

「今昔館でのボランティア活動について」西明子氏（町家衆）

3月14日（木）、3月20日（水・祝）

（既存登録199名、新規登録予定者21名／令和6年3月31日現在）

○児童、学生等を対象にした学習支援

- ・小学3年生を対象に、昔の暮らしの生活体験学習を実施した。
- ・黒電話や手回し洗濯機など教科書で書かれている道具を紹介するとともに、実演を多用し、博物館で実物を見る良さを感じられるように配慮した。
- ・大阪市内・市外の小学校 243 校、13,983 人の児童が今昔館を訪れた。そのうち体験学習には3年生を中心に75校、4,025人の児童が参加した。
- ・大学生を対象とした博物館実習を実施し、受講を希望した5校の学生5名を受け入れた。
- ・大阪市内の中学の職場体験プログラムの受け入れを行った。(1校3名)
- ・大学の建築学科の授業(実測)の受け入れ(1校14名)
- ・新任教員研修の受け入れ(2日間2名)

② 展示事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○今昔館の認知度向上のための広報活動等

- ・メディア対応

企画展の内容を中心に各メディアへ情報を発信した。

〈令和5年度取材実績〉 計 151 件

- ▶ 新聞 27 件
- ▶ テレビ・ラジオ 21 件
- ▶ 情報誌・雑誌・コミュニティー誌等 35 件
- ▶ ウェブサイト等 67 件
- ▶ その他 1 件
- ▶ 市関係広報媒体等 随時
- ▶ 美術館・イベント情報媒体等 随時

- ・広告

企画展等への集客を図るため、Osaka Metro42 駅への企画展のポスター掲示を実施したほか、新聞に広告 19 件、大阪府内全小学生向け新聞に 1 件広告を掲載し、近郊の住民の方々や小学生とその保護者等へ向けて周知した。また、今昔館への集客のため歴史系専門誌に 2 回広告を掲載した。

○多言語対応の取り組み等

- ・8階、9階常設展示の解説はQRコードを用いて日本語・英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語の4か国語で対応しており、スマートフォン(電子媒体)を活用した展示紹介を行っている。
- ・インフォメーション、ロッカー、休憩コーナー等の館内案内は日本語・英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語の4か国語表記とするとともにピクトグラムを用いている。

- ・来館者に配布するリーフレットについても日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の4か国語を用意している。「商家の賑わい」「夏祭りの飾り」の2つのバージョンを作成し、展示内容や展示位置がわかるようマップ及びQRコード解説の画像を掲載している。
- ・9階常設展示室お風呂屋シアターでは、桂米朝と桂米團治の掛け合いで9階展示を紹介するコンテンツを上映。8階常設展示室で上映している「住まいの大阪六景模型」・「住まい劇場」に日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）韓国語の字幕を入れ、多言語対応をしている。

○展示設備等の更新

8階～10階

- ・Wi-Fi 接続環境の整備

9階

- ・演出照明制御機器更新
- ・環境演出制御機器更新
- ・植物等補修
- ・環境演出音データ更新
- ・町家内部照明更新（LED化・照度調整）
- ・風呂屋シアター映像制御機器の更新
- ・メディアプレイヤー更新

8階常設展示室

- ・住まい劇場昇降用モーターの取り替え
- ・住まい劇場人形衣装更新
- ・住まい劇場プログラム更新

○ミュージアムショップ

- ・5月21日（日）に営業を再開した。

○電子チケット、キャッシュレス決済の環境整備

- ・海外からの観光客も含めたチケット購入のスムーズな支払いを可能とするためインターネットでの電子チケット購入及びキャッシュレス決済の環境を整備した。
（クレジットカード、電子マネー、QRコード、アソビュー、大阪観光局楽遊パス・パスケット、ソノリゴ、JTRWEB など）

○地域魅力の発信に向けた取り組み

- ・大阪都市魅力創造戦略 2025 の施策項目のひとつ「大阪の強みを生かした魅力創出・発信」の取り組みとして、天満・天神橋地域との一層の連携強化を目的として締結した天神橋筋商店会との包括連携協定に基づき、商店会との協力体制を強化しつつ、地域の都市魅力資源を活かした取り組みを継続した。
- ・天神橋筋商店会と協力し、今昔館の入館券を提示すると、商店街内にある一部の店舗で割引を受けられるサービスを引き続き実施した。
- ・9階常設展示室では、今と昔の祭の様子や、かつて天神祭に曳きだされた船形山車「天神丸」、船渡御を迎えるお迎え船に飾られた「御迎え人形」など天神祭り関連の展示を実施し、地域魅力の情報発信に努めている。
- ・天神祭期間中は地域各地の御迎え人形の展示施設を巡るスタンプラリーに協力した。また、祭当日、天満宮天神講を始めとする地元組織の協力で、館内で来館者に大阪獅子舞や傘踊り、大阪締めを披露してもらい、地域と連携して様々な地域魅力の発信に努めた。
- ・天満天神繁昌亭や上方落語協会に協力いただき、第18回子ども落語大会を開催した。今昔館での審査会を経て、入賞者が繁昌亭の舞台上で観客を前にその芸をお披露目し、商店街を介してつながる両施設の連携を活かした地域魅力の発信となった。
- ・天神橋筋商店会主催の阿波踊りイベントの行進コースに加わり、常設展示室で来館者と共に踊りを繰り広げ、「日本の祭り文化」の魅力を発信した。
- ・天満天神繁昌亭とのコラボレーション企画として、8月1日（火）より「チケ得」（相互施設のチケット半券を掲示することで割引を受けられるサービス）を開始した。

○外部団体との連携

- ・大阪教育大学の「コラボレーション演習」に協力し、6名の学生を受け入れ、今昔館を紹介するショート動画の作成、外国人来館者へのインタビュー調査を行った。動画は2分間で9階展示室を一周し見どころを紹介する内容。インタビューでは館に関する情報の入手方法について調べ、SNSが活用されていることが分かった。
- ・「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪2023）」10月28日、29日実施のイベントに参加し、9階常設展示室において、カンナ削り体験や町家2階の一般開放といった、展示を通じて木造建築について学べる催しを実施した。
- ・日本建築学会と連携して、「2023年度 建築設計展 第64回全国大学・高専卒業設計展示会」を企画展示室にて開催し、全国の大学及び高等専門学校の卒業設計優秀作を展示した。（会期：6月29日（木）～7月2日（日）開催日数4日 入館者数：1,687人 無料）
- ・大阪府登録文化財所有者の会が企画する「たてももの御財印めぐり」に参画し、大阪府下の登録文化財と建築文化の普及に協力した。

(7) 住まい・まちづくりネットワーク事業

① 実施状況・実績

- ・住まい・まちづくりにさまざまな形で取り組むNPOや専門家団体等と連携・協働し、大阪の居住地としての魅力を高め、その情報を発信するため、「住まい・まちづくりネットワーク」（住むまち大阪スタイル人）を設置している。
- ・住情報プラザ内では、住むまち大阪スタイル人等と連携し、団体紹介のパネル展や、各団体の行うイベント案内等の設置など、スタイル人の活動を広報した。
- ・センターとまちづくり団体等が連携して、幅広い住まいづくりの情報提供と大阪の文化や魅力を伝えるためのセミナーやイベント、まち歩きなどを行う「タイアップ事業」として、「チャレンジタイアップ事業」と「タイアップ+plus(プラス)事業」を実施した。
- ・「住むまち大阪スタイル人」と連携し、令和元年度に立ち上げた「大阪すまいラボ」について、令和5年度は防災プロジェクトを通じて、ウェブサイト「災害に備えて住まいのためにできること」を制作した。
- ・また、住まい・まちづくり教育プロジェクトの一環として、中学生向け教材「あなたのお家は大丈夫？～防災すごろく～」と「家の中に潜む危険を見つけよう！」も制作した。

○チャレンジタイアップ事業・タイアップ+plus（プラス）事業実績

チャレンジタイアップ事業として選定され・事業を実施した団体数／応募団体数	4団体／4団体
タイアップ+plus（プラス）事業	9団体（10事業実施）

- ・事業実施後の参加団体へのアンケートでは、タイアップ事業についての各団体の満足度は100%であった。また、参加者へのアンケートにおける主な意見としては以下のものがあった。

【チャレンジタイアップ事業】

家にいる？どこかに逃げる？大洪水のときにとるべき行動

- ・グループワークで資料を見せてもらいより具体的に知識を深められた。避難の方法を考えようと思った。

【タイアップ+plus（プラス）事業】

住宅における省エネ対策ってどんなこと？一脱炭素社会と私たちの暮らし方—

- ・省エネの高性能の設備器具を使うことも必要だが、風を取り込む、遮る工夫、体で感じることのできる素材を使うことも大切。

- ・事業実施後には、住まい情報センターのSNSにセミナー報告を掲載するとともに、年間の事業報告としてタイアップ事業報告書を作成し、チャレンジタイアップ事業の企画提案募

集のための PR ツールとして区役所及び図書館に配架し、タイアップ事業応募団体の新たな開拓にもつなげた。

○出前講座の実施

- ・タイアップ+plus（プラス）事業者の協力により、希望される地域にお伺いして、住まいや暮らしに役立つ講座を開催する出前講座を実施した。
- ・幅広い層の方に受講していただけるよう、大阪市社会福祉協議会や大阪市の子ども・子育てプラザ等に対して積極的に広報活動を行った。

協力団体数	プログラム数※	実施回数	参加者数
9 団体	15 種類	7 回	149 人

※1つの団体で複数ご協力いただいたプログラムを含む。

3. 利用者モニタリング等の実施状況

(1) 利用者モニタリングの実施概要

事業の実行や業務改善を実施していく過程を、指定管理者自身で適切に検証していくことが重要であるため、次のとおり業務に関するモニタリングに取り組んだ。

○事業企画会議の設置と開催

- ・各事業の新たな視点による事業展開の検討などを行うため、外部の学識経験者を交えた「大阪市立住まい情報センター事業企画会議」を設置し、会議を7回開催した。
- ・各事業の進捗状況や実績の推移等を確認し、センターの運営全般に関する様々な視点からの意見・提案をいただき、業務改善に繋げた。

○調整会議の設置と開催

- ・各事業の実施状況の点検・評価や、業務の効率的な運営を行うため、「指定管理調整会議」を設置し、12回開催した。
- ・各事業の進捗状況や実績の推移等を確認し、事業計画書や年度協定書等の内容を確実に実施できているかどうかについて、点検・評価を行い業務改善に繋げた。

○大阪市立住まいのミュージアム協議会の開催

- ・住まいのミュージアムの運営にあたって、展示や・調査研究の分野をはじめ、教育・学習や観光など、多様な分野の学識経験者等の専門家で構成する住まいのミュージアム協議会を令和6年3月に開催した。外部有識者からは、学芸員による企画展運営の評価や研究活動に対する助言等今後のミュージアム運営について貴重な意見をいただいた。

○「業務チェックシート」による自己点検・自己評価

- ・施設の管理運営状況や事業計画の実施状況、施設の有効利用等について、「業務チェックシート」を作成し、業務全般に関する自己点検・自己評価を毎月行った。

○相談事業データの分析と活用

- ・一般相談や専門家相談の個々の内容は、年代など相談者の属性と合わせて相談システムに入力し、全データを分析することにより、相談・情報提供の傾向を把握している。
- ・セミナーや企画図書のテーマ選定や広報紙「あんじゅ」の特集記事への反映など、普及・啓発事業、広報事業、ライブラリー事業、住まい・まちづくりネットワーク事業に活用した。

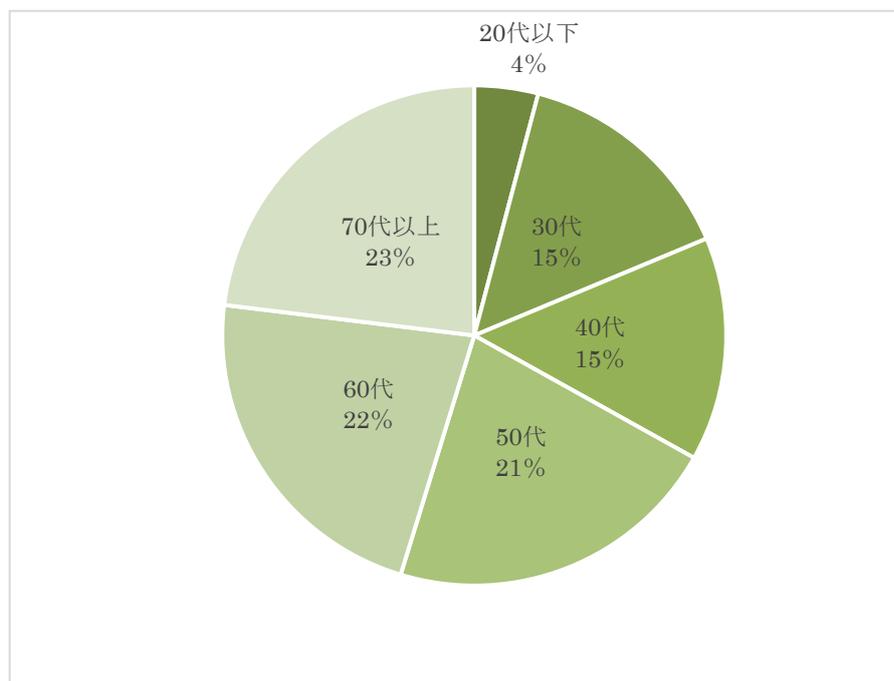
(2) 施設利用者満足度

相談対応時や、各種セミナー、ホール・研修室、大阪くらしの今昔館においてアンケートを実施し、利用者からの意見・感想等をお聞きした。これらの調査結果については組織内で共有し、センターの運営にあたって業務改善の参考とした。

《相談》

- ・利用者は70歳代以上が23%、次いで60歳代が22%、50歳代が21%、40歳代、30歳代がそれぞれ15%、20歳代以下は4%であった。

【住まいの一般相談利用者の年代別構成比】



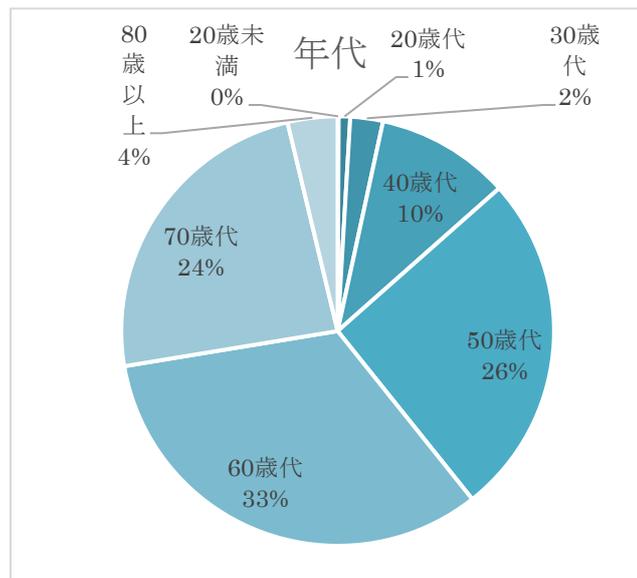
【主な意見（抜粋）】

- ・ どうしていいのかわかっていましたが、丁寧に教えていただいて助かりました。ありがとうございました。
- ・ こちらで案内いただいた建築の専門家の窓口で相談してみます。色々と情報提供していただきありがとうございました。
- ・ 今日は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 補助金の有無について、知人に聞いてもどこに聞いてもよくわからず、何が本当なのかわからない日々を過ごしていましたが、こちらに相談してスッキリしました。
- ・ 全く知らなかったことについて、勉強不足がわかり、今後、しっかり学ぼうと思いました。

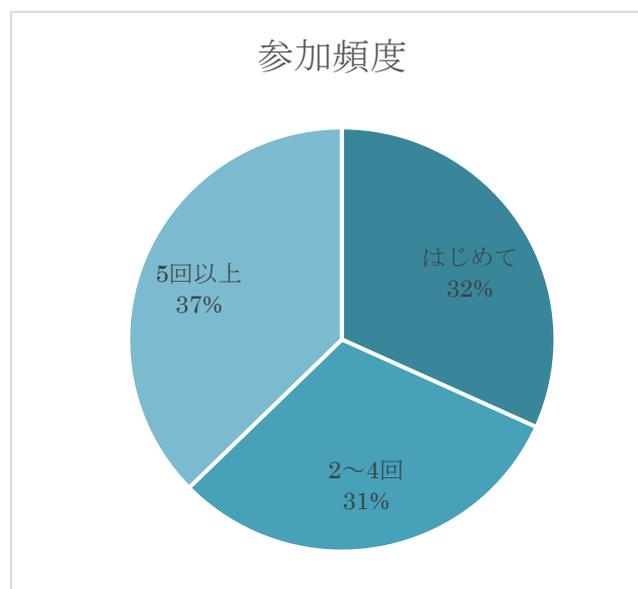
《セミナー・シンポジウム等》

- ・セミナー・シンポジウム等の参加者は、60歳代以上のシニア世代が半数以上を占め、次いで50歳代、40歳代の順に多かった。
- ・参加頻度については、「2回以上参加したことがある」が68%と多く、リピーターが多いことがわかった。
- ・さらに、満足度については「大変参考になった」「参考になった」が98%と高い評価をいただいた。

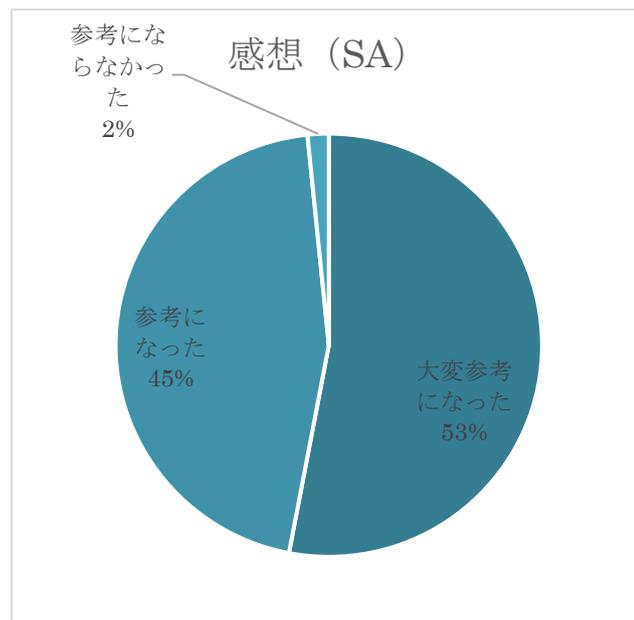
【回答者の年代別構成比】



【回答者の参加頻度】



【回答者の満足度】



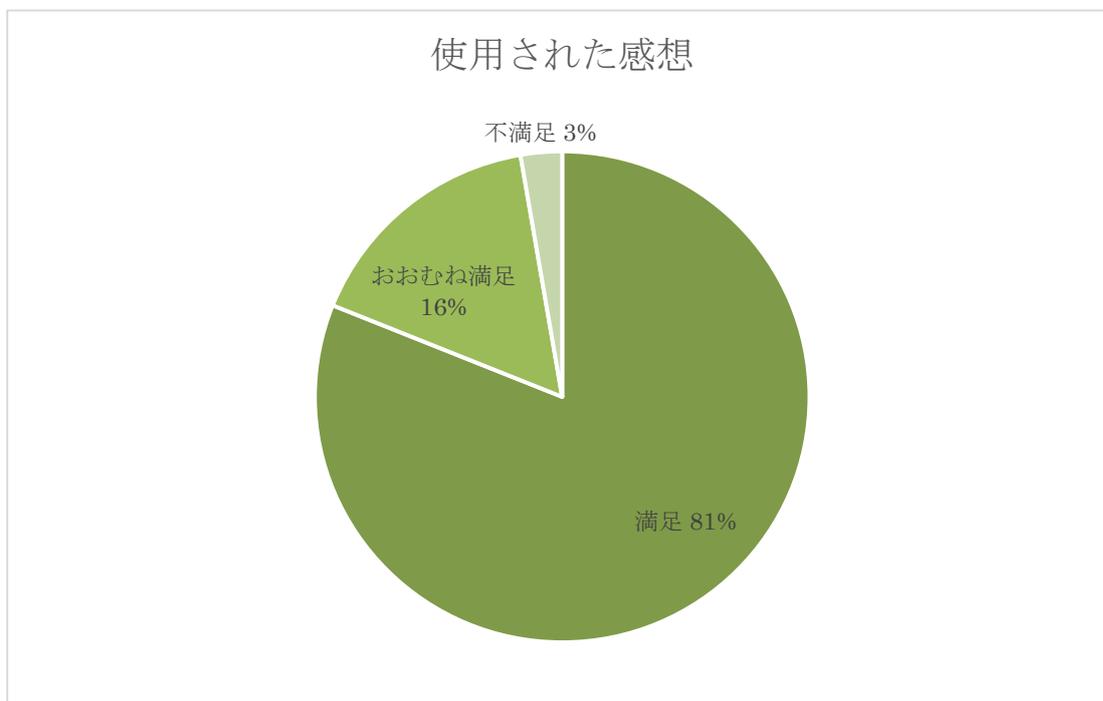
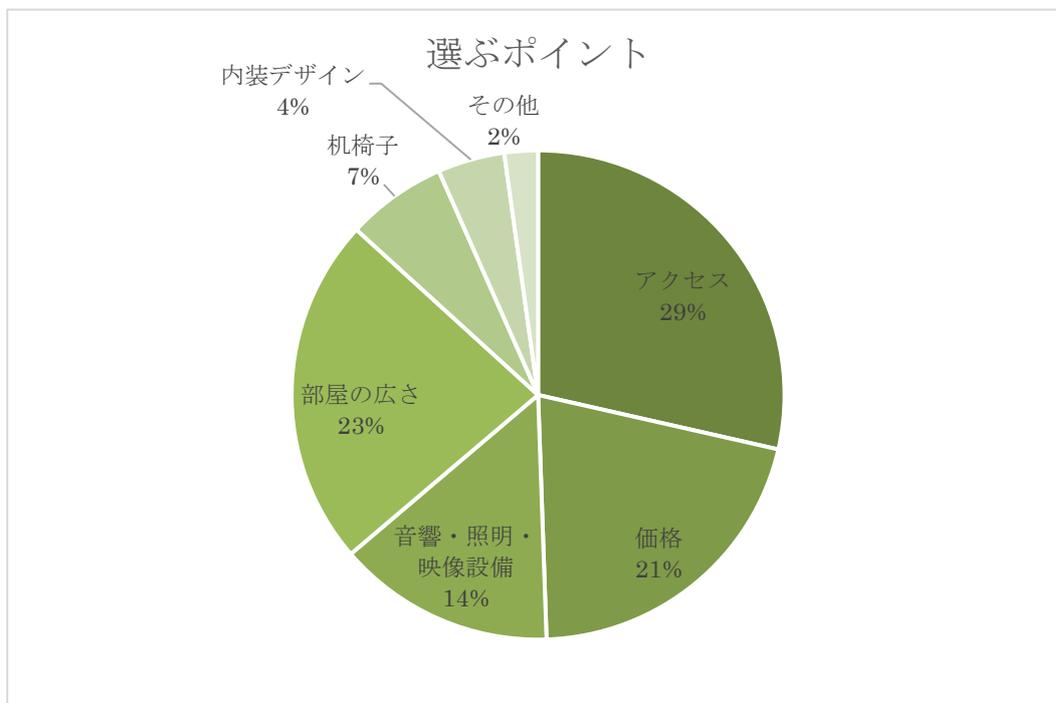
【主な意見（抜粋）】

- ・書類、文書に残すことが大事、契約書の事前チェックも重要だが、重説がより重要で、契約書を交わす前には必ず目をとおしておくことなどが印象にのこりました。トラブル事例も、とても参考になりました。／住まいの基礎知識セミナー「住まいを購入する【第6回】住まいの契約編「重要事項説明と契約」」より
- ・引き出しのレールなどの調整方法がわかったのでよかったです。／住まいと暮らしのワークショップ「1DAY ワークショップ 住まいの中の金物のメンテナンスと基本的な道具の使い方を学ぶ」より
- ・建築と合理性のバランス、我々一般民衆の建築に関する関心と知識の低迷に問題があると認識しました。／第10回大阪市ハウジングデザインシンポジウム「これまでの大阪市ハウジングデザイン賞と都市型集合住宅のこれから」より
- ・特定空き家や管理不全空き家に指定されては大変なので、しっかり対策しておこうと思いました。／タイアップ+plus 事業「一から考える空き家対策」より
- ・江戸期の大阪の借家契約、名義人を通した生活の様子が垣間見れて興味深く聞かせていただきました。／のぞいてみよう！江戸時代の大阪の暮らしより

《ホール・研修室》

・「アクセス」、「価格設定」、「音響・照明・映像設備」「部屋の広さ」を選ぶポイントとして挙げる声が多かった。

・「スタッフの接客対応」では満足したという声を多くいただいた。



【主な意見（抜粋）】

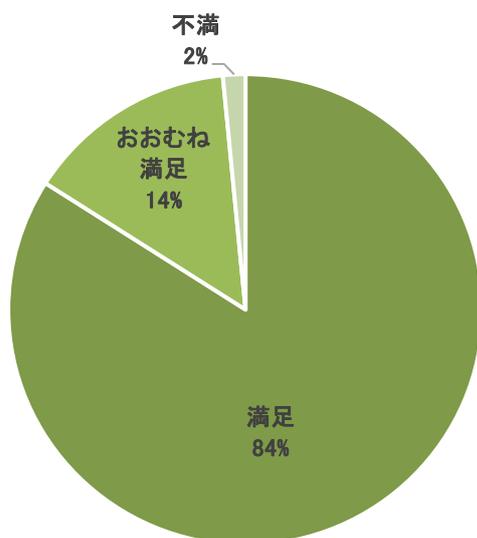
- ・下見の時から丁寧に対応いただきました。
- ・アクセスが良く利用しやすいため講座参加者の方々に大変喜ばれています。ありがとうございます。

- ・きれいで設備も整っていて使いやすいです。
- ・室内でお茶、お菓子を出せなのが残念でした。（特別清掃費については説明済みの方より）

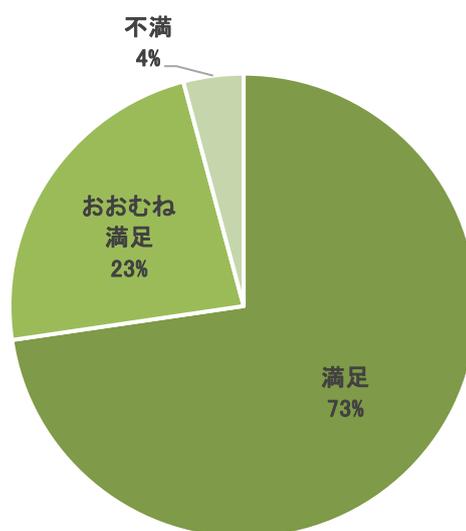
《大阪くらしの今昔館》

- ・今昔館全体や展示、イベント内容ともに「満足」「おおむね満足」がいずれも90%を超える高い評価を得た。

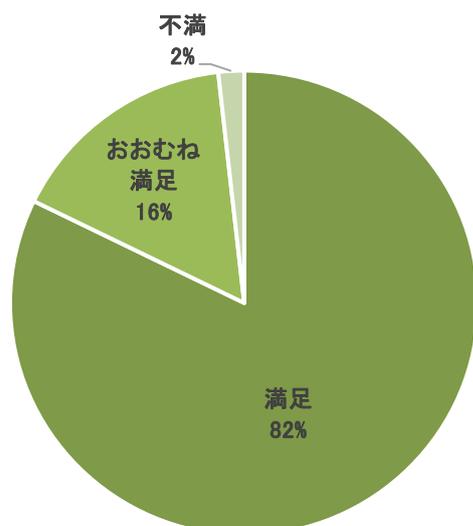
【大阪くらしの今昔館全体の満足度】



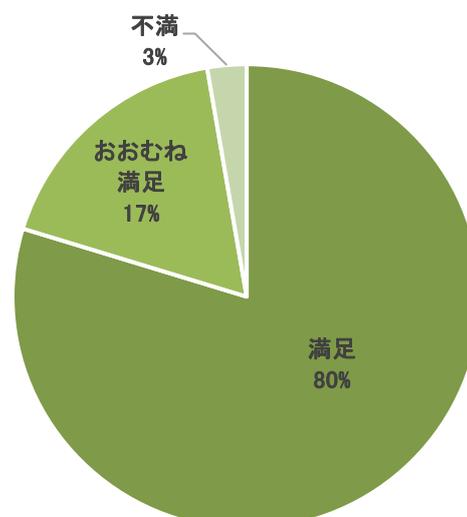
【イベントの満足度】



【展示内容の満足度】



【スタッフ対応の満足度】



【主な意見（抜粋）】

- また来たいと思いました！映像資料・音声資料が充実していてとても楽しかったです！！
- 展示の方法、見せ方が素晴らしい。くらしの今昔館では、建物だけでなく、1日を45分で空の風景が変わったり、鶏の鳴き声や町のざわめく音なども再現されている所がおもしろい。大阪パノラマ遊覧も、住み替え物語であきずに最後まで興味をもって観ることができました。
- 昔の大阪について知ることができて楽しかったです！
- 今度は家族と一緒に来たらいいなと思います！
- The sight of Osaka in the past is amaizingly well presented, so I'm satisfying for that. Thanks!!

(昔の大阪の風景がとても綺麗に再現されていて満足です。ありがとうございます!!)

- 個人的に歴史は興味がないのでよくわからなかったです。
- 9階の女子トイレが少なすぎる。
- 9階に男子トイレがあったら・・・。
- もっと宣伝すればいいと思う。知らない方が多いのもったいないです。

4. 自主事業

住まい情報センターの設置目的に寄与する充実したサービスを利用者に提供するため、自主事業を実施した。原則有料でのサービス提供により、自主事業実施のための財源を確保した。

令和5年度自主事業

	タイトル	内容	実績
広報事業	広報誌「あんじゅ」の広告掲載	広報誌「あんじゅ」に広告を募集し掲載しました。	1枠
	ホームページのバナー広告掲載	ホームページにバナー広告を募集し掲載。	申し込みなし
	パンフレットラックの広告掲載	ホール等に設置したパンフレットラックを活用し、広告やチラシ等を募集し掲載しました。	@1,000円×3回 @2,000円×0回 @3,000円×0回
普及・啓発事業	セミナー【有料】	大阪くらしの今昔館の館蔵品を活用した特別解説セミナーや、天神祭を特集する「天神祭りルー講座」など、施設の設置目的に合致し、通常のセミナーから一歩踏み込んだ内容のセミナーを実施しました。	1回
	まち歩き【有料】	まちの魅力を伝える「まち歩き」や、大阪くらしの今昔館の所蔵品を活用し、現代の風景から歴史をさかのぼる「ぶら歩き」を実施。	0回
貸室事業	ホール・研修室での飲食対応	ホール・研修室使用時での飲食を希望される利用者にも、特別清掃料をいただき対応しました。	20回
展示事業	企画展関連イベント	各企画展に関連したセミナー、ワークショップ等を有料で開催しました。	3,000円×1回
	住まいとくらしの大阪学講座	住まいのミュージアムの資料を活用した講座や、学芸員の研究成果を発表する“住まいとくらしの大阪学講座”を有料で実施。	0回
	ロケーションフォト	新郎新婦の衣装が和装であることを条件に9階展示室で結婚記念写真を撮影していただくサービスを実施。	申し込みなし
	香道体験	香を聞いてその名前を当てる香道を体験するイベントを実施。	0回
	着物体験	近世展示室において着物姿で江戸時代のまちを散策することができる着物着付けサービスを提供しました。(R5.5.17から)	28,220人
	今昔館祭り	町家衆によるパフォーマンスの披露や、手作り小物等を販売しました。	1回
	ものづくり体験ワークショップ	木版画・折り紙・つまみ細工・ハンカチ染め等のワークショップを実施しました。	通年
	博物館実習の受入	博物館学を履修している大学生の実習生を受け入れました。	5人
	展示室のロケ撮影への貸出(映像撮影)	映画やテレビドラマ等の映像撮影に展示室を貸出しました。	2回
	図録販売・リーフレット等刊行物販売	図録やリーフレット等の、施設に関連する刊行物を販売しました。	適宜
	年間パスポート販売	年間を通じて常設展に入場できるパスポートを販売しました。	29枚
	スーツケース等置き場の利用料	大型スーツケース専用置場を貸出しました。	649個
	学芸員特別講座	企業等が開催する歴史・文化講座への講師派遣の要請に応じて、当館展示や収蔵品に関連した講座を提供しました。	8回
	建築プログラム(匠の技を体験)	建築・デザイン系の学生を対象に、軸組み模型を使ったり、実物の小屋組みを見ながら日本の伝統建築技術を学習する建築プログラムを実施。	申し込みなし
	ミュージアム所蔵品画像貸出	ミュージアム所蔵品画像の制作・貸出を実施しました。	7件
プレミアム和文化体験	船場のサロン文化を体験する 文人の茶会イベントを有料で実施しました。	1回	
その他	自動販売機の設置	自動販売機を3階・4階・5階・8階の各フロアに設置しました。	通年
	ミュージアムショップ	8階にミュージアムショップを設置し入館者に販売しました。	R5.5.21～R6.3.31
	コピーサービス	4階にコピー機を設置し、来館者の利用に供しました。	通年

5. 収支決算状況

令和5年度 大阪市立住まい情報センター管理運営業務収支報告

1.収入

(単位:円)

項目	金額(計画)	金額(決算)
1.利用料金収入	154,175,000	109,818,736
2.自主事業	70,904,000	37,767,644
計(A)	225,079,000	147,586,380

2.業務代行料

項目	金額(計画)	金額(決算)
業務代行料	212,057,000	228,499,000
計(B)	212,057,000	228,499,000

3.支出

項目	金額(計画)	金額(決算)
1.人件費	197,548,000	227,549,097
2.事務費	10,914,000	8,626,211
3.維持管理費	65,476,000	81,412,637
4.事業費	64,144,000	43,259,767
ア 相談事業	4,940,000	4,195,935
イ 普及・啓発事業	6,889,000	3,982,626
ウ 広報事業	11,119,000	10,470,790
エ ライブラリー事業	2,110,000	1,710,405
オ ホール・研修室等運営事業	2,667,000	2,721,058
カ 展示事業	35,080,000	19,070,699
キ 住まい・まちづくりネットワーク事業	1,339,000	1,108,254
5.共通経費等	48,611,000	42,754,528
6.その他(自主事業等)	30,691,000	19,285,369
7.租税公課	19,752,000	20,623,604
計(C)	437,136,000	443,511,213

4.利益

計(D) = 計(A)+計(B)-計(C)	0	-67,425,833
-----------------------	---	-------------

上記のとおり報告します。